

躍動！感動！交流！ 日韓最大の草の根交流！ ～ 日韓交流おまつり 2013 ～

ソウル事務所

2013年9月15日(日)にソウル市 COEX 展示場で日韓交流おまつり2013が盛大に開催されました。このイベントは、韓国人と日本人が一つになって創っていく、最大規模の日韓交流行事で、2005年日韓国交正常化40周年を記念した「日韓友情年」に第1回が開催され、今回で9回目を迎えました。年々、その規模は大きくなり、日韓草の根交流の代表的なイベントとなっています。



近年の日韓情勢や東日本大震災の発生等への配慮により、これまで、おまつりの開催が危ぶまれた年もありましたが、そのたびに日韓双方の関係者や市民の皆様の熱意に支えられ、今年は約45,000人が参加し、熱気に満ちたおまつりは成功裏に幕を閉じました。

今回は、おまつり開催までの道のりや当日の交流の様子を御紹介したいと思います。

1. 「終わり」は「始まり」

おまつりが終わり、当日の様子や開催結果が報告されると、息つく間もなく次回のおまつりの準備が始まります。日韓交流おまつりは両国の関係者で組織する実行委員会で運営されています。今年2月には早くも第1回目の運営委員会が開催され、おまつりの準備がスタートしました。クリアソウル事務所も運営委員会の一員として参画し、おまつりの舞台裏を支えています。

今年のテーマは「芽生える希望、未来へ」。時に日韓関係が冷え込んだり、東日本大震災のような未曾有の災害に見舞われても、それらを乗り越え、希望を見出し、共に明るい未来に向かっていこうというメッセージが込められています。運営委員会が毎月開催され、時にはそれぞれの熱い思いが対立することもありましたが、そのエネルギーがこのテーマの達成とおまつりの成功に向けて注ぎ込まれました。

2. 運営を支えるボランティア

おまつりの運営に参加するボランティアの人数も年を追うごとに増えています。今年は過去最多の応募があった昨年(約950名)をさらに上回る1,000名以上の応募があり、そのうち約700名が日韓の架け橋の一員として一緒におまつりを盛り上げました。日本に関心をもっている市民や学生の皆さんがこんなにも多く、そのうえ日本語が堪能なこと

に驚かされました。おまつりの会場内に出展しているブース内では企業や自治体の PR が行われましたが、来場者とのふれあいにはボランティアの存在が欠かせません。



<おまつり会場で活躍するボランティアの皆さん>

3. 観客を魅了する多彩な演出

おまつりの舞台では、伝統芸能や J-POP、K-POP の公演が披露され、会場を沸かせました。韓国のポップオーケストラで幕が上がると、オープニング公演として両国の合同プロジェクトチームによる演奏が観客を魅了しました。



<沖縄エイサー（沖縄市山里青年会）>

その後、和太鼓のリズムで軽快に踊る「沖縄エイサー（沖縄市山里青年会）」、古来から伝わる音楽と舞が融合した「雅楽（皇學館大學雅楽部：三重県）」、韓国の伝統芸能の打楽器演奏「サムルノリ」等、両国の伝統芸能が次々に披露され、特に、日本と韓国の出演団体による合同公演は文字通り日韓の文化交流を象徴する独特の雰囲気醸し出し、会場の一体感が増していくのを肌で感じました。

また、今回、おまつりの司会を務めた女優の藤井美菜さんをはじめ、日本側のスペシャルゲストとして登場した三浦春馬さんや三吉彩花さんらは日韓両国で芸能・映画などさまざまな分野で活躍されており、トークショーには若い方々を中心に多くのファンが駆け付け、大きな声援が送られるなど日本の芸能が韓国でも人気があることがうかがえました。来場された皆さんも舞台の演出にくぎ付けになりました。

また、今回、おまつりの司会を務めた女優の藤井美菜さんをはじめ、日本側のスペシャルゲストとして登場した三浦春馬さんや三吉彩花さんらは日韓両国で芸能・映画などさまざまな分野で活躍されており、トークショーには若い方々を中心に多くのファンが駆け付け、大きな声援が送られるなど日本の芸能が韓国でも人気があることがうかがえました。来場された皆さんも舞台の演出にくぎ付けになりました。



<日韓両国の伝統芸能>

4. 自治体も大いに PR

会場内では企業や自治体ブースを出展して、来場者とふれあいながら、PR 活動を行いました。自治体ブースでは、それぞれの自治体の職員や関係の方々地域観光資源や特産品を大いに PR していました。会場内にはさすがに日本に対する関心の高い方が多く、振る舞い酒や特産品の試食には長蛇の列が出来るほど大変盛況でした。

今回、クレアソウル事務所もブースを出展し、韓国人観光客誘致に関する各種アンケートを実施しながら日本の観光 PR に取り組みました。(アンケートの詳細については、別途公表予定です。) さらに、ブース内に JETAA 大韓民国支部ブースも設置し、共同でブース運営を行い、JET プログラム等の PR も行いました。

※自治体ブース出展団体名 (ブース番号順)

観光庁/日本政府観光局 (JNTO)、ヒーリング三重県、山梨県・甲斐◇風林火山、青森県、長崎県、自治体国際化協会 (CLAIR)、岡山県、(公益財団法人) 新潟県観光協会、九州観光推進機構、鳥取県、(一般財団法人) 沖縄観光コンパニオンガイド協会・沖縄市山里青年会



<自治体ブースの様子>

※写真

左上:CLAIR によるアンケート調査、右上:JET プログラムの PR

左下:青森県、右下:観光庁/日本政府観光局 (JNTO)

5. 感動のフィナーレ。そしてちょっと、裏話

舞台公演の終盤は「よさこいアリラン」、「弘前ねぶた」が登場し、感動の瞬間を作り上げていきます。日本の有名なまつりである「よさこいソーラン」の踊りを韓国の民謡「アリラン」に合わせて新しく創造した「よさこいアリラン」は今やこのおまつりの代名詞でもあります。日本と韓国のリズムが融合した「よさこいアリラン」で会場は1つになります。そして、勇壮華麗な山車燈籠に率いられて「弘前ねぶた」が登場。情緒あふれる笛や太鼓の音色が会場を包み込み、感動のフィナーレへと誘います。最後は全出演団体によるリレー演奏。演奏に合わせて、市民や出演者、スタッフまでもが一緒になって踊りました。会場の真ん中に大きな踊りの輪が出来て大きなうねりとなっていく様はまさしく日韓交流です。人や文化が交流して共感し合い、理解が深まる。感動のフィナーレでした。

ここで、ちょっとしたハプニングがありました。演奏が終わり、司会者がおまつりの終わりを告げようとした瞬間、「もういっちょやるかぁっ！」の雄叫びとともに演奏がはじまり、再びうねりが動き出したのです。まつりの終わりを惜しむ気持ちがフィナーレのアンコールとなり、再び、感動しました。

来年、日韓交流おまつりは記念すべき10周年を迎えます。もう、来年のおまつりに向けて新たなスタートが切られようとしています。来年は人と文化の交流が生み出す感動を直接味わってみませんか？皆様の御参加を心よりお待ちしております。

日韓交流おまつり HP <http://www.omatsuri.kr/japan/index.asp>



(古殿所長補佐 鹿兒島県派遣)